

宮崎大学農学部連携協定締結記念 令和7年度 森林総合研究所九州地域公開講演会

開催日時:令和7年11月17日(月)

開催場所:くまもと県民交流館パレア10階パレアホール(熊本市中央区手取本町8-9)

参加者数:150名

テーマ:国有林発!新しい造林技術の開発と実践

2017年に九州森林管理局が熊本県人吉市の国有林に10haの試験団地を設定し、宮崎大学・森林総合研究所と連携して多くの造林技術の検証と開発が行われました。その中で特徴のある成果を今回の講演会で分かりやすく紹介しました。

また、今回の講演会で森林総合研究所九州支所職員が発表した講演につきましては、同様の内容の動画を後日YouTube(森林総研チャンネル)にて配信します。

<https://www.youtube.com/c/FFPRIchannel>

開会挨拶

○九州支所長 勝木 俊雄



講演内容

○九州森林管理局 森林整備部 企画官 森本 明

趣旨説明 造林コスト削減等に向けた技術開発の取組
～「低コストモデル実証団地」の設定経緯～

戦後植えられた森林は、主伐期を迎えており、主伐後の再造林を着実に進めていくためには、造林コストの削減等が不可欠です。そこで、国の先導的な役割を発揮するため、熊本県人吉市に所在する広大な約10haの国有林のフィールドにおいて様々な試験研究等を実施し、その成果等を広く林業関係者と共有し効率的な森林施業を目指すツールとすべく、その経緯を紹介しました。



○宮崎大学農学部 農学部門 教授 伊藤 哲

エリートツリー等を活用した低コスト再造林の可能性とリスク

エリートツリーや特定母樹は本当に林業を救えるのでしょうか？ 複数試験地での成長データに基づいて、「成長に優れるスギ」のポテンシャル(潜在力)と様々な条件下での実際のパフォーマンスを紹介し、低コスト再造林への活用の可能性と留意点を解説しました。また、各系統(品種)の特徴と施業方法を考慮した系統選択・植栽場所選択の考え方も紹介しました。



○森林総合研究所 九州支所 主任研究員 八木 貴信

生物多様性に優しい単木管理型の新しい人工造林技術

従来型の人工林造林技術はスギ等の造林樹種の単純林育成で木材生産効率を高める一方、生物多様性は犠牲にし、造林木に邪魔な雑草木は下刈り・除伐等で排除してきました。しかし新技術で造林木と雑草木の共存が可能になれば生物多様性の損失は減らせます。そのような新技術である単木管理型初期保育について、植栽後7年間の最新の試験成果を紹介しました。



○森林総合研究所 九州支所 森林生態系研究グループ長 野宮 治人
高下刈り:刈払いの強度を下げてシカ食害を軽減できるか？

低コストモデル実証団地と6試験地を利用して、雑草木を高い位置で刈払う高下刈りに挑戦した。高下刈りは普通の下刈りよりも刈り残しが多く、シカの好む植物が林地に残ることで、植栽したスギへの食害が軽減することを期待した。高下刈りによって食害は減少したが、もともとの食害レベルによっては、効果が十分に得られなかった。しかし、作業性や誤伐の減少などにメリットがあることもわかった。



○九州森林管理局 森林技術・支援センター 森林技術専門官 川野 幸三
シカ生息地におけるシカ被害軽減を組み合わせた下刈方法

再造林コストの削減が課題であるが、中でも下刈作業のコスト削減、負担軽減が重要となっている。近年ではシカ被害対策が必須となっており、造林コストをさらに押し上げる状況となっている。低コスト団地で実施したシカネットを使わない高下刈試験を、国有林の事業に適用して効果を検証した。シカ食害は発生したが、スギは高下刈でも普通下刈に近い成長を示した。



閉会挨拶

○宮崎大学 農学部長 國武 久登



講演者・幹部集合写真

